

校内の推進体制づくり

【ねらい】

G I G A スクール構想実現に向けた校内の推進体制づくりについて理解する。

【ポイント】

- ① 推進体制づくりに必要な3つのポイント
- ② 県内の取組状況から見えた推進体制づくり
- ③ 推進体制づくりとICT活用について

【活動】 各学校における推進体制を見直してみましよう。

3つの
ポイント

各学校への取材などからわかる各学校の課題意識

～1人1台端末活用について抜粋～

- ・活用について各教員の裁量に任されている
- ・情報管理担当者の負担が大きい
- ・端末利用のルールと指導の徹底が必要

など

- ・情報共有が限定的で効率化できていない
- ・学年や学校間などで連絡調整できる仕組みがない
- ・地域や保護者との効率的な情報共有に課題がある

など

- ・教職員のスキルの差が大きい
- ・教科間でICT活用のばらつきがある
- ・ICT活用について学ぶ研修時間の不足

など

視点

1

リーダーシップと
組織体制の整備

視点

2

校務の情報化と
授業外での活用

視点

3

組織的なスキル向上に
つながる研修の充実

※2021年度 GIGA取材、研修講座アンケートから

視点 1 リーダーシップと組織体制の整備

1人1台端末活用を教育目標や研究テーマに位置づけ、推進体制を構築。

管理職や教務主任、
研究主任の
リーダーシップ

学校の実態に応じた
ICT活用についての
ビジョンを普及

視点1の
取組の整理

学校全体として
前向きな取組と
風通しのよい環境

校務分掌の再編や
情報管理係の分担
を意識

視点1 リーダーシップと組織体制の整備

1人1台端末活用を教育目標や研究テーマに位置づけ、推進体制を構築。

校内支援体制の整備 活用の促進

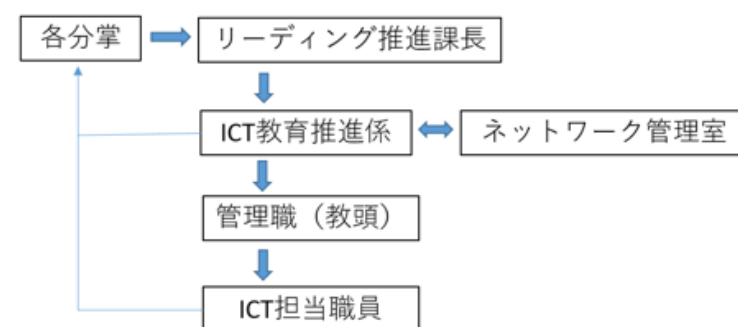
ICT活用における支援体制の構築

- 4月当初は、学校全体におけるICTの活用について戸惑う場面もあったが、推進体制を構築してからは、スムーズな活用が行えるようになっている。
- 支援要請は、リーディング推進課に相談することからスタートし、ICT教育推進係、ネットワーク管理室（ハード系）とも連携し、取組を進めている。
- 各種配信のパターンに応じた準備と対応を行っている。

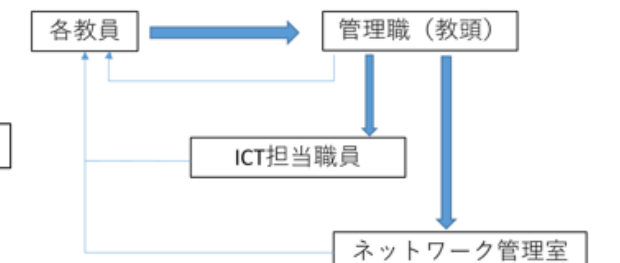
県立岡山朝日高等学校

ICTを活用した行事の実施や会議等への参加に関する支援要請の流れ

①学年集会、講演会、式典等を実施する場合



②会議・研修等に参加する場合（個人による活用）



出典：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/08/post-1846/>

校内組織の工夫 連携の促進

校内組織の工夫で、効率化と活性化を実現

- 技術面から支援する『教務課情報係』、授業改善から支援する『教務課企画係』を設置し、各年次2名ずつを配当して強化したことで、学年間の情報共有がやりやすくなり、円滑に業務が進行するようになった。また、転勤などで担当がいなくなることによるトラブル発生リスクが軽減された。
- 年度当初に自由参加の形で“自主研修会”を開催した。基本的なChromebookの操作から、授業実践の紹介まで、丁寧に説明しており好評だった。また、併設する中学校の先生も多数参加することができた。

県立津山高等学校



出典：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/07/post-1547/>

視点
2

校務の情報化と授業外での活用

業務を効率化し負担を軽減することで働き方改革につなげる。
効果的な情報共有を実現する。

ペーパーレス化や
集計作業の効率化に
よるメリットの共有

効果的な情報共有の
恩恵を体験し、効率
のよい仕組みを整備

視点2の 取組の整理

授業の周辺部分の
活用から実践し
自信をつける

学校全体で利用し、
活用のコツを互いに
教え合う風土を構築

視点
2

校務の情報化と授業外での活用

業務を効率化し負担を軽減することで働き方改革につなげる。効果的な情報共有を実現する。

■ 情報共有と可視化

情報の共有

職員朝礼も時間短縮。連絡事項をドキュメントで共有し、いつでも見える、書き込める。

職員全員がアクセスできる共有ドライブを作成し、ドキュメントを使用して職員朝礼を行っている。ドキュメントには、連絡事項等を打ち込むことだけでなく、共有したり、資料のリンクを貼り付けたりするなどしておき、効率のよい仕組みを整えている。



井原市立芳井中学校

出典：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/08/post-1784/>

■ 情報発信とSNSの活用

情報の発信

積極的な情報発信

校内の取組や様子について積極的な情報発信を行っている。また、寄宿舎を持つ支援学校として保護者からも情報発信へのニーズが高い。学部間で分担し、学校の様子については、ホームページ、ブログ、Facebook、メールマガジン（要登録）で、毎日昼夕の給食のメニューについてはTwitterで紹介している。



健康の森学園支援学校

出典：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/11/post-2336/>

視点
3

組織的なスキル向上につながる研修の充実

活用スキルの差を埋める。
ICT活用指導力の育成。

教職員のニーズや
児童生徒の課題に
即した研修

OJTを活用する
などの人材育成の
一環としての研修

視点3の 取組の整理

授業実践を
学校全体で共有し
活用の幅を広げる

目的に応じた、
短時間で効率的な
研修形態や資料の工夫

視点
3

組織的なスキル向上につながる研修の充実

活用スキルの差を埋める。
ICT活用指導力の育成。

■ 学校のニーズに即した研修 目的に応じた研修

課題に即応する校内研修の実施

- ・ ICTの利用に関して日々の先生方の困り感を吸い上げ、校内で研修ができるように準備をし、タイムリーな研修を全教職員に行っている。同僚が自分の工夫を講師となって広めることを基本としている。
- ・ 5月に、生徒の学びを止めないため、教職員全員を対象とした説明動画を作成する研修を実施した。1人1台端末を活用した、すぐに活用できる内容で、学校を休んでいる生徒へ授業動画を配信するなどの活用が進んでいる。



県立岡山朝日高等学校

出典：http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/08/post-1846/

■ 授業改善への取組 全体共有で授業改善

校内での取組を定期的に共有することで、自身の授業等へ活かせる仕組みづくり

「使っていく」ことを厭わないために、終礼等の短い時間を利用して実践紹介し、共有する時間を設けている。時間をかけることなく、情報を全体で共有することは、授業で活用するヒントとなり、有効である。また、学期に1回程度期間を設定し、自身の授業での取組を表に打ち込み、まとめている。



出典：http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/08/post-1907/

タブレット活用♪

井原市立芳井小学校

学年	教科名	単元名など	
1年	国語	ひらがなの学習	まなビューア(デジタル教科書)で、ひらがなのなぞり書きを練習する。書き順の動画を見て、個人で復習する。
	国語		確かめとして、ワークシートをする。(紙のプリントより児童のやる気が出るように思う。)
	生活科	わたしのあさがお	あさがおの成長をカメラで撮る。(教室に戻って、机でゆっくり観察できる。)
2年	国語 算数	スクールタクト	まなびポケットのスクールタクトを利用して教師の作成した問題を解く。分からない時は、教師にヘルプを求めたり、児童同士でも確認し合うことができる。
	学活 or 図工	ジャムボードで絵を描こう	グループに「木」「山」「川」「魚」などが書かれたカードを配付し1人1枚ずつ引いて、その絵を描く。一斉に描くと魚が空を飛んでいたり、川の中に木が生えていたりして、各班楽しい作品ができた。担任の顔を描かせたら盛り上がった。
	学活	ジャムボードでしりとりしよう	ペアになり、ジャムボード上でしりとりをした。すぐに字でいっぱいになるので、拡大した状態で字を書いた方が良い。
	国語	スイミー	デジタル教科書の本文に線を引いたり、書き込んだりしている。新出漢字でも活用。

■ 令和の日本型学校教育の構築

改革に向けた6つの方向性

- (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する
- (2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する
- (3) これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する
- (4) 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる
- (5) 感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障する
- (6) 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する

(2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する

- 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、学校内外との関係で「連携と分担」による学校マネジメントを実現
- 外部人材や専門スタッフ等、多様な人材が指導に携わることのできる学校の実現、事務職員の校務運営への参画機会の拡大、教師同士の役割の適切な分担
- 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、相互に連携・協働して、地域全体で子供たちの成長を支えていく環境を整備
- カリキュラム・マネジメントを進めつつ、学校が家庭や地域社会と連携し、社会とつながる協働的な学びを実現

■ 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- カリキュラム・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実
- 端末の活用を「当たり前」のこととし、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現

- GIGA スクール構想により配備される 1 人 1 台の端末は、シンプルかつ安価なものであり、この端末からネットワークを通じてクラウドにアクセスし、**クラウド上のデータ、各種サービスを活用することを前提**としている。このため、学校内のみならず学校外とつなぐ**ネットワークが高速大容量であること**、地方公共団体等の学校の設置者が整備する教育情報セキュリティポリシー等において、クラウドの活用を禁止せず**必要なセキュリティ対策を講じた上でその活用を進めることが必要**である。
- また、小学校、中学校段階のみならず、多様な実態を踏まえつつ高等学校段階においても1人1台端末環境を実現するとともに、各学校段階において、**端末の家庭への持ち帰りを可能とすることが望まれる**。さらに、数年後に迎える**端末の更新**については出来るだけ早急に関係者間で丁寧な検討を行っていくことが必要である。
- その際、1人1台の端末環境を生かし、**端末を日常的に活用することでICTの活用が特別なことではなく「当たり前」のこととなるようにするとともに**、ICTにより現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化することが必要である。**児童生徒自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要**である。

教育の情報化に関する手引（追補版）の概要

作成趣旨
 新学習指導要領においては、初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしており、情報教育や教科等の指導におけるICT活用など、教育の情報化に関わる内容の一層の充実が図られた。

新学習指導要領の下で**教育の情報化が一層進展するよう、学校・教育委員会が実際に取組を行う際に参考となる「手引」を作成。**

- ✓ 新学習指導要領のほか、現時点の国の政策方針・提言、通知、各調査研究の成果、各種手引、指導資料等に基づき作成
- ✓ 現行の手引の内容を全面的に改訂・充実するとともに、「プログラミング教育」「デジタル教科書」「遠隔教育」「先端技術」「健康面への配慮」などの新規事項も追加
- ✓ 各学校段階・教科等におけるICTを活用した指導の具体例を掲載

第1章 社会的背景の変化と教育の情報化

<p>第2章 情報活用能力の育成 情報活用能力の育成 ○これまでの情報活用能力の育成 ○学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力 ○情報活用能力の育成のためのカリキュラム・マネジメント ○学校における情報モラル教育</p>	<p>第4章 教科等の指導におけるICTの活用 教科等の指導におけるICT活用の意義とその必要性 ○ICTを効果的に活用した学習場面の分類例と留意事項等 ○各教科等におけるICTを活用した教育の充実 ○特別支援教育におけるICTの活用</p>	<p>第5章 校務の情報化の推進 校務の情報化の目的 ○統合型校務支援システムの導入 ○校務の情報化の進め方 ○特別支援教育における校務の情報化</p>
<p>第3章 プログラミング教育の推進 プログラミング教育の必要性及びその充実 ○小学校段階におけるプログラミング教育</p>	<p>第6章 教師に求められるICT活用指導力等の向上 教師に求められるICT活用指導力等 ○教師の研修 ○教師の養成・採用等</p>	
<p>第7章 学校におけるICT環境整備 ICT環境整備の在り方 ○デジタル教科書やデジタル教材等 ○遠隔教育の推進 ○ICT活用における健康面への配慮 ○デジタル教科書やデジタル教材等 ○先端技術の導入 ○ICT活用における健康面への配慮 ○教育情報セキュリティ</p>		
<p style="text-align: center;">特別支援教育における教育の情報化 ※各章において特別支援教育関係の記述をしている。</p>		
<p>第8章 学校及びその設置者等における教育の情報化に関する推進体制 教育委員会及び学校の管理職の役割 ○ICT支援員をはじめとした外部人材など、外部資源の活用</p>		

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

土台

引用：文部科学省（「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）
 【令和3年4月22日更新】～抜粋～ https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

教育の情報化に関する手引

(追補版)

令和2年6月



引用：文部科学省（「教育の情報化に関する手引-追補版-(令和2年6月)」）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

第8章

学校及びその設置者等における教育の情報化に関する推進体制

「教育の情報化を進めるためのリスト」 の学校の役割

- 1 教育の情報化のビジョンの普及
- 2 推進体制の整備
- 3 情報化による授業改善
- 4 校務の情報化
- 5 人材育成・活用

令和の日本型学校教育の取組内容とつながる

統合的な視点での取組

学習指導要領に
対応する授業改善

教育の情報化の推進

G I G Aスクール
構想の実現

推進体制づくりの3つのポイント

視点1 リーダーシップと組織体制の整備

視点2 校務の情報化と授業外での活用

視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

教育の情報化の
ビジョンの普及

学校が抱えている
課題解決に
ICTを活用

主体的・対話的
な深い学びの視
点の授業改善

1人1台端末の
日常的な活用



教職員の意見



学校情報化認定

参考

GIGAスクール構想対応チェックリスト更新版

情報化の推進体制

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
管理職のリーダーシップと学校の情報化のビジョン	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職の役割が明確になっている	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職のリーダーシップが発揮されている	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職を含むリーダーシップチームにより推進されている	学校の全体計画に情報化が位置付けられており、管理職を含むリーダーシップチームにより、持続的・計画的な教育の情報化が推進されている
情報化担当教員	情報化担当教員(情報主任等)が学校の情報化の普及に努めている	情報化担当教員(情報主任等)が管理職と連携して、学校の情報化の普及に寄与している	情報化担当教員(情報主任等)が管理職と連携して、学校全体の情報化の普及・定着のために貢献している	情報化担当教員(情報主任等)が中心となって、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを行い、学校全体の情報化を持続的・計画的に推進している
情報化推進組織・校務分掌	情報化を推進する組織が校務分掌に位置付けられている	情報化を推進する組織が校務分掌に位置付けられ、学校全体の情報化の普及・定着に寄与している	管理職、情報化担当教員(情報主任等)、情報化を推進する組織が一体となって、学校全体の情報化の普及・定着のために貢献している	情報化を推進する組織が機能し、学校全体の情報化による教育改善が実現している
教員のICT活用指導力とその向上のための校内研修	校内研修は行われているが、教員のICT活用指導力の向上は限定的である	日常的な情報交換に加え、ICT活用指導力向上のための校内研修が計画的に行われている	校内研修が計画的に行われており、ほとんどすべての教員がICT活用指導力を身に付けている	より高いICT活用指導力を身に付けるために、校内研修が工夫され、ICTを活用した授業研究が計画的に実施されている
外部との連携、外部人材の活用	情報化の推進のために教育委員会を含む外部から何らかの支援を受けている	情報化の推進のために教育委員会を含む外部からの支援を受けたり、外部人材の活用を行ったりしている	情報化の推進のために大学や企業等外部からの支援を受けたり、ICT支援員の配置や外部人材の活用を行ったりしている	研究指定・助成や大学・企業等との連携等、情報化の推進のための外部支援を受けたり、ICT支援員の配置や外部人材の活用継続的に取り組んでいる

※チェックリスト一部抜粋



■ 本研修で使用したデータは、「おokayama ICT活用実践事例集」に掲載

各冊子5つの学校の事例を紹介しております

おokayama ICT活用
実践事例集 Web版
～ 主体的な学びを充実させるICT活用 ～

4 読者の学びを
みんなに
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

vol. 1
2021.8

全体版 1

美作市立美作北小学校 / 県立津山中学校 / 井原市立芳井中学校

参考URL：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/08/post-1880/>

おokayama ICT活用
実践事例集 Web版
～ 主体的な学びを充実させるICT活用 ～

4 読者の学びを
みんなに
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

vol. 2
2021.11

全体版 2

井原市立芳井小学校 / 高梁市立有漢中学校 / 高梁市立落合小学校
/ 奈義町教育委員会 / 岡山県立芳泉高等学校

参考URL：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/11/post-2318/>

おokayama ICT活用
実践事例集 Web版
～ 主体的な学びを充実させるICT活用 ～

4 読者の学びを
みんなに
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

全体版
vol. 3
2021.12

Ver.211210

岡山県立岡山東商業高等学校
岡山県健康の森学園支援学校
赤磐市立山陽小学校
奈義町立奈義小学校

全体版 3

参考URL：<http://www.okayama-c.ed.jp/i-katsu/2021/12/post-2778/>

■ 最新情報は、随時当センターのHPをご確認ください

岡山県総合教育センター

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>



おokayama ICT活用実践事例集

バナーを
選択

Voiced by <https://CoeFont.cloud>